

平成28年11月24日 提出

「カスリーン台風から70年を迎えるにあたり」

2015年9月の関東・東北豪雨によって、思川、巴波川が増水し、決壊寸前にまで増水しました。

我々は、今まで渡良瀬遊水地は首都圏を守る施設としてあるのだと認識していましたが、今回の豪雨により増水した水を渡良瀬遊水地に洪水を貯留してくれた事で、思川、巴波川の堤防決壊を免れました。周辺地区住民の一人として、関係者の方には、感謝、感謝。以外言葉がありません。

我々、周辺地域にとっても必要で大切な渡良瀬遊水地だと強く認識しました。

また、2017年(平成29年)はカスリーン台風から70年になりますが、当時ゼロ歳の方も70歳になるので、過去のあの悲惨な台風の被害を二度と起こさないように、みんなで力を合わせて、特に若い年代の人達に「地域を安心して暮らせるような地域づくり」を認識してもらおう努力をしなければならないと思うので、暗い話だけではなく現在行われている開発事業により明るい夢のある地域づくりをして、後世に引き継いで行くことが出来たらと思います。

なお、この地域は利根川・渡良瀬川からの逆流(バックオウウォーター)により洪水の危険が増すので上流にダムを設置が最も大切な事なので、利根川上流の八ツ場ダムの早期の完成と、また思川最下流の住民が安全な暮らしが出来る地域になるよう、南摩ダムの早期実現を願っております。

国、県、市町村による努力を強くお願いします。

渡良瀬遊水地第2調節池周辺地区治水事業促進連絡協議会
会長 米田 弘